



文化庁

朝来市【兵庫県】 歴史文化基本構想を活用した 観光拠点づくり事業



関西地方

■協議会メンバー…
和田山町観光協会／生野町観光協会／奥銀谷地域自治協議会／大蔵地域自治協議会／竹田地域自治協議会／梁瀬地域自治協議会

■構想策定年度…平成二八年三月
■補助事業期間…平成三〇年四月二日
平成三一年三月二九日

歴史文化基本構想の概要

朝来市は、山陰道・播但道・古代官道の結節点、すなわち「但馬の南玄関」である。古代から朝鮮半島との独自交流によって発展し、中近世には全国屈指の銀山を擁する生野が天下人の財源を支え、周辺に強固な城郭が作られた。明治には官営鉱山として日本の近代化に大きく貢献した。人・モノ・文化交流の中心地として発展した地域の個性を、観光振興、まちづくりに活かしていく。

観光拠点形成の方向性

- ・歴史文化遺産を地域の誇りとして後世に残す
- ・朝来市の強みを観光資源として市内周遊観光ルートを創造する

観光に関する課題

- ・スポット的に観光客が訪れているが市内周遊の誘導ができていない
- ・市内一括の情報発信ができていない
- ・幹線道路からの看板設置が不十分

事業概要

朝来市城郭集成の作成

天空の城として有名となった竹田城跡だけでなく、朝来市には数多くの中世山城が存在している。それらを広く知ってもらうことで、地域の郷土愛の醸成とともに、竹田城跡へ訪れた観光客の市内周遊を目指して、「朝来市城郭集成」を作成した。冊子は、市HPでも読むことができる。

■KPI 城郭遺跡見学会・講演会への参加者数：
200人(H29)→250人(H30)

情報
発信

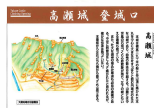


大蔵の山城周遊看板の設置

平成29年度からの継続事業として、大蔵地域の山城登山道、遺構情報を掲載した案内看板を設置した。地域住民による声掛けや案内によって、大蔵の山城パンフレットを持って山城を歩く観光客が増えてきている。

■KPI 朝来市内の中世山城を活用した連携イベント：
1回(H29)→2回(R1)

情報
発信



朝来市歴史文化遺産看板の設置

平成29年度に作成した「朝来市歴史文化遺産マップ」による観光客の市内周遊をさらに促進するため、指定文化財でありながら来訪者の少なかった市内の歴史文化遺産3箇所に、観光用看板を設置した。QRコードからYouTubeへリンクし、動画による紹介を導入した。

■KPI 朝来市への観光客数：
2,293,496人(H29)→2,350,000人(H30)

情報
発信



大蔵の山城啓発講演会の開催

冊子「大蔵の山城」に記載してある情報をもとに、制作者の一人が経験した山城発見の状況や、実際に遺構を歩く楽しさ、地域の歴史の面白さなどを伝える講演会を開催した。前年同様、地元住民だけでなく、阪神間の関係者にも声掛けし、広域から聴講者を得た。

■KPI 大蔵地域の歴史文化遺産を活用したイベント：
1回(H29)→10回(R1)

普及
啓発



成果

① 地域住民の関心が高まった

地元の歴史文化遺産に関心を持ち、歴史を学んだり自発的に地域の歴史文化遺産を調査する動きが市内全域で出来つつある。郷土愛やおもてなしの心の醸成が、観光客誘致に効果を発揮すると期待される。

② 観光客の周遊が増加傾向

即効的な成果は出ていないが、マップを手にした観光客や今まで知られていなかった歴史文化遺産への来訪者が徐々に増加してきている。